

多摩クリニックでは、初診で来られた後に、口腔形態の評価、口腔の評価、食事時の外部観察評価を行い、必要に応じて精密検査（VF検査：嚥下造影検査）を行っているという話でした。

### 口腔の形態の評価

- 口腔の形態
- 咬合状態（かみ合わせ）
- 口蓋形態（上あごのかたち）
- 歯の萌出状況（歯の生えている状態）
- 関連器官の形態異常
- 口腔関連筋のトーン（筋肉の緊張程度）



### 精密検査が必要と考えるのはどんな時？

- 肺炎や発熱を繰り返す
- 原因不明の嘔吐を繰り返す
- 食べる時に頻繁にむせる
- 食べるとSpO<sub>2</sub>（動脈血酸素飽和度）が下がる、呼吸が荒くなる



VF検査へ..

### VF検査

- 誤嚥検査ではない（誤嚥を見つけるためだけが目的ではない）
- どうやったら安全に食べられるかを評価する
  - 食形態
  - 一口量
  - 姿勢
  - 食べさせ方

など

摂食指導を通して見えてきたこととして、子どもの食の問題は障害を持つ子どもだけの問題ではなく、すべての子どもの問題であるが、世の中にはほとんど知

られていないことから、社会に訴えていくことが必要であると強調されていました。

また、支援についても、社会の役割として「地域で支える」ことが大事であると述べられました。

### 摂食指導を通して見えてきたこと

- 「子どもの食」の問題は、あらゆる家庭、社会において重要なテーマ
- その中でも、特別な練習（摂食嚥下リハビリテーション、摂食指導）をしないと栄養を摂れない子どもたちがいる→社会的な認知は足りていない
- 子どもの「心」「栄養」「機能（食べ方）」を育むためには、養育者から**子どもへの支援**、そして社会から**養育者への支援**がカギ

社会の役割とは??

講演のまとめとして、上手に食べるために必要なことは、まずは「機能」や「形態」ではあるけれども、それよりも『食べたい!』という「意欲」=「食欲」が一番大切であることを話されて、講演を締めくくられました。

上手に食べる ≒ 美味しく食べる



食欲はありますか？